

拓水

題字は 県漁連三浦会長

6 月号
No. 117

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産改良普及協会
神戸市兵庫区新在家町 123
発行人 三浦清太郎
TEL 6301-6685
編集 拓水編集委員会
発行日 毎月 30日
一部10円
昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

三浦清太郎氏に叙勲 塩崎義民氏

本県漁業界の功労者である両氏は、四十一年春の叙勲により四月二十九日の佳節に次のおりそれぞれ叙勲の栄を受けられました。ここに深く敬意と祝意を表します。



三浦氏



塩崎氏

ご挨拶

三浦清太郎

山は緑で登山に良し、海は魚じまで釣りに尚良しの好季節、殊に偶然にも、私の誕生日の去る五月十二日、水産関係の功績の意味で、我が系統漁業界では、最高と聴く勲四等瑞宝章受章の光栄に浴したのであります。憶うに私奴、業界人、社会人として当然過ぎる程当然な行動を取って過ぎて、叙勲とは余りにも榮誉で全く感激の極みであります。従ってこれは偏らに諸関係の皆様方のご保護と、ご支援、ご鞭撻の賜なりと、堅く信じて共に、謹んで衷心より厚く御礼を申し上げます。ところが、受章後の考え方について、種々な意見を耳にしますが、私なりのこの種考への割り切り方は、現時点の生存者の叙勲は、年令に厳しい制限がある意味で、兎に角私は受章は名譽の戒名を戴いたと解すると共に、勲章とは今はつるもではなく、胸に秘めて、この榮誉に堪えるべく、今後の余生は総て奉仕の一途を以て、終始一貫したいと思うのが、現在の心境なのであります。何卒今後よろしく御支援、御鞭撻の程を伏して御願ひ申し上げ、御挨拶の辞と致します。

ご挨拶

塩崎義民

私は昭和六年二月に佐野浦漁業組合の組合長に選ばれまして以来三十有六年県漁連に於きましても昭和十三年二月に小畑種吉氏等の設立に参加理事の表名を汚しまして以来、二十余年今日に至っております。その間兵庫県水産協会、内海漁連、信濃漁連、県漁連等の設立、幾多の交遷もあり一漁民としても大きな事件も沢山ありましたが、幸にして県当局の御指導御鞭撻と先輩や同志諸君の御努力で大過なく今日迄生き延びて参りました。さきに知事君や全漁連会長大日本水産会長諸氏より表彰を受け、昭和三十六年五月に農林大臣より表彰の栄に浴し同三十七年五月に黄綬褒章を授けられ、今回五等雙光旭日章を拝授の上、宮城北の間で天皇陛下より有がたきお言葉をお聞き重ね、の光栄に只恐慚懼感激致しております。誠に身にあまる光栄これ一重に皆様方の永年の御厚情の賜でありまして謹んで御礼申し上げます。

ニジマスの海水放流の結果判明

兵庫県水産課では、瀬戸がわが二カ月ほどの間に内海栽培漁業協会(会長長金井兵庫県知事)と共同で、五徳(体長百五十五センチ、約五・五徳)となつて居るニジマス(海水性)を、五月月中旬で約四十尾が再捕され、いずれも順調に育つて居ることがわかつた。この試みは全国でもあまり例がないので、水産庁はじめ関係方面から期待と関心が集められて居る。去年十二月初め、淡路の岩屋共栄漁協の水槽に体長十二センチ前後のニジマス稚魚を入れて二週間ほど、酸素・塩素量を調整しながら少しずつ海水に馴らした(海水馴化)この馴化された稚魚のうち約四十尾を福良湾内の栽培漁業福良中間育成場で一カ月間飼育した。今年二月下旬に約二十尾と福良湾内へ共々約二十尾ずつ放流してその成長ぶりや分布状況を調査しているものである。去年今冬も、明石海峡一帯が断然すぐれた成績を示して居ます。大阪・神戸のコンブ加工業者はこの試験に非常に強い関心を持ち、色々の形で協力してくれる。

明石海峡はコンブ養殖の適地

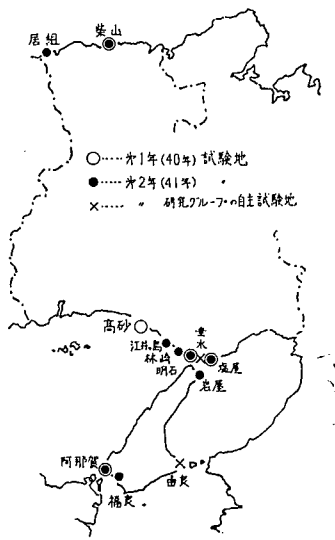
井 伊 明

この種の養殖コンブも五月中旬現在、早いところは二メートルに達し、温帯性のおけるコンブ養殖の可能性はますます濃くなったといえます。去年今冬との海中養殖試験地は同の所であり、但し試験地とは異つた施設でやがたお願ひします。本紙が配布された頃にはコンブは最大型に達しておりました。しかしこの時期を人間にたとえれば、背丈の伸

アイナメ(アブラメ)の稚魚放流

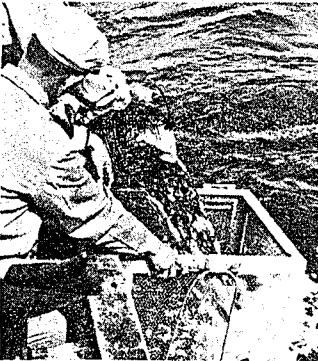
去年に引き続き、今年もまた県水産課では、瀬戸内海栽培漁業協会から明石市二見沖原のアイナメ稚魚(平均体長十センチ)七万尾の配布を受けて次のところに放流した。
このアイナメは、放流後われているところでは成長あまり遅くない魚である。よく、秋から冬にかけてため、地元漁業者による禁漁対象魚となり、漁業者の漁区、禁漁期間の設定等、漁獲対象魚として扱われる。自主的保護措置がよく行なわれている。

| 放流尾数 | 場 所 | 放流月日 |
|---------|--------|--------|
| 二〇、〇〇〇尾 | 淡路町岩屋沖 | 五月十日 |
| 一〇、〇〇〇尾 | 西淡町淡沖 | 五月十二日 |
| 一〇、〇〇〇尾 | 南淡町福良湾 | " |
| 七、〇〇〇尾 | 神戸市須磨沖 | 五月十三日 |
| 八、〇〇〇尾 | 淡路町岩屋沖 | 五月二十五日 |
| 二、〇〇〇尾 | 東浦町坂口沖 | " |



漁船技術修練会開催のお知らせ

漁船技術修練会は毎年二、三回、県内漁業者を対象に漁船の運転技術習得のための修練会を開催し、毎回好評を博しているが、本年第二回(一回目は坊勢に於て実施中)として次のとおり決定したのでお知らせします。詳細は県水試または但馬漁連までお問合お願ひいたします。
一、修練科目
二、期間
昭和四十一年七月一日(七月三十一日)(二カ月間)
三、場所
城崎番住町、但馬漁業センター講堂
四、講師
県水試、豊永 杉本阿枝師
五、試験
講習終了後、八月二日より同場所にて、神戸海運局による臨時国家試験が実施される。試験は第一日口身体検査、第二日口筆記試験、以上合格者について第三日から口述試験が実施される。以上。
なお、回期間中の七月二十五日から七月三十一日までの一週間、但馬漁連主催で「小型船舶操縦士」程度の講習もあわせて行なわれ、試験も同時に実施される予定。講師は同水試の各技術師が当たる。



(5月10日岩屋沖の放流)

五、六月の漁海況 (内海側)

(1) 海況

大阪湾、播磨灘における五月下旬の水温は大阪湾で一四・五〜一六・五度、播磨灘では一三・五〜一五・〇度を示し、前月の予測より一〜二度内外低く、五月下旬は、播磨灘に於ける水温の上下差は2〜3度、Cと前月より大きく、夏型初期の分布を示し始めている。塩分は播磨灘でも前月に引きついで低域である。

一方、水温の上昇にともなう、各種の魚卵や稚仔が出現し始めているが、ネズミ子と呼ばれる淡路島スズメ(通称テコンチ)の辺境発生地である。その後、五月下旬後半になって播磨灘では五・七〜五・五cmの新稚エビは播磨灘でも例年より多い群、いわゆる春仔が多く出現している。他に、出現し始め、こませ網、ばら網、五月下旬のイワン産卵網(五、六以下)をみせた。五月下旬後半は、すでに大阪湾(五、五〜二・〇ト)と一口一、二トのシノボリが採集されたが、特にカタクチイワシが前年と同じく極めて多い。なお、五月下旬の水温は、大阪湾で一八・一〜一九度、播磨灘では一八度以下を示す見込。

(2) イカナゴ漁況

今年のシノボリは四月下旬までほとんど漁獲されず、五月後半になって給魚網(五、五以下)をみせた。五月下旬後半は、すでに大阪湾(五、五〜二・〇ト)と一口一、二トのシノボリが採集されたが、特にカタクチイワシが前年と同じく極めて多い。なお、五月下旬の水温は、大阪湾で一八・一〜一九度、播磨灘では一八度以下を示す見込。

(3) イワシ漁況

五月下旬のイワン産卵網(五、六以下)をみせた。五月下旬後半は、すでに大阪湾(五、五〜二・〇ト)と一口一、二トのシノボリが採集されたが、特にカタクチイワシが前年と同じく極めて多い。なお、五月下旬の水温は、大阪湾で一八・一〜一九度、播磨灘では一八度以下を示す見込。

「イカナゴ」陸揚試験成績上々

去る五月十九日午前七時より、県水試東側岸壁において同水試指導のもとに、明石浦漁協のバッチ網のイカナゴ陸揚にフィッシュポンプを使用、陸揚試験を行なったが、従来のものにくらべて、従来ものより、フィッシュポンプにより陸揚状況は、



フィッシュポンプによる陸揚状況

漁業経済調査結果からみた瀬戸内海区の漁業経営指標の動き

昭和四十年漁業経済調査結果から、大阪湾のカタクチイワシの産卵量とその年の成魚漁獲量との間に密接な関係が認められ、播磨灘に於けるイワシの産卵量と成魚漁獲量との関係も同様である。この関係を利用して、播磨灘のイワシ漁業の経営状況を調査した。その結果、播磨灘のイワシ漁業は、昭和四十年は、前年より、漁獲量が減少し、漁業所得も減少した。これは、播磨灘のイワシ漁業の経営が、前年より悪化したことを示している。

第1表 標準平均値、年次比較表

| 年度 | 40 | 37 |
|------|---------|-------|
| 漁業収入 | 1,150.5 | 874.3 |
| 漁業支出 | 490.2 | 450.6 |
| 漁業所得 | 660.3 | 423.3 |

昭和四十年の漁業経営調査結果から、播磨灘のイワシ漁業の経営が、前年より悪化したことを示している。これは、播磨灘のイワシ漁業の経営が、前年より悪化したことを示している。この関係を利用して、播磨灘のイワシ漁業の経営状況を調査した。その結果、播磨灘のイワシ漁業は、昭和四十年は、前年より、漁獲量が減少し、漁業所得も減少した。これは、播磨灘のイワシ漁業の経営が、前年より悪化したことを示している。

ベラ、クロダイの雌雄

魚は一般に外観上雄、雌の区別がつけ難いが、ベラは外観上魚体の色ではっきり区別できる。即ち「青ベラ」といわれるのが雄で「赤ベラ」といわれているのが雌である。ベラは生誕後2年位位までは雄も雌も同色で同じ模様がついており、成長して生後3年位位になると、雄は若しくは青味を帯びて「青ベラ」となり、雌は赤味を帯びて「赤ベラ」となる。クロダイは幼魚の間は雌、雄にわかれてなく、すべて雄であるが、2才から4才ごろの間は精果(しらく)の中に卵果(まこ)をもつようになってくる。4才から5才になると精果、卵果の何れか一方が退化し消えて、完全な精果か卵果に発達し、クロダイは雄か雌かはっきりわかれてくる。即ち外観上は雌雄何れも変化しないが成長する途中で雄が雌に変わってくるものがあり生まれて4年たって始めて雌ができることになる。

フィッシュポンプ等のもっと早くから使用されてしかるべきである。これは、播磨灘のイワシ漁業の経営が、前年より悪化したことを示している。この関係を利用して、播磨灘のイワシ漁業の経営状況を調査した。その結果、播磨灘のイワシ漁業は、昭和四十年は、前年より、漁獲量が減少し、漁業所得も減少した。これは、播磨灘のイワシ漁業の経営が、前年より悪化したことを示している。

第2表 標準所得平均値、年次比較表

| 年度 | 40 | 39 | 38 |
|--------|-------|---------|-------|
| 兵庫 | 600.0 | 750.5 | 469.9 |
| 岡山 | 693.4 | 474.8 | 702.0 |
| 広島 | 406.5 | 271.0 | 591.4 |
| 山口 | 970.7 | 1,150.7 | 414.4 |
| 瀬戸内海平均 | | | 473.2 |
| 全国平均 | | | 833.0 |
| 兵庫 | | | 444.2 |
| 岡山 | | | 398.9 |
| 広島 | | | 196.6 |
| 山口 | | | 905.1 |

最近漁業の省力化については色々議論されておられるが、その意図は中々複雑であり、解り難い。漁業の省力化は、漁業の経営を悪化させることになり、漁業の経営が、前年より悪化したことを示している。この関係を利用して、播磨灘のイワシ漁業の経営状況を調査した。その結果、播磨灘のイワシ漁業は、昭和四十年は、前年より、漁獲量が減少し、漁業所得も減少した。これは、播磨灘のイワシ漁業の経営が、前年より悪化したことを示している。

